

令和4年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立思斉中学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童（生徒）の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童（生徒）一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童（生徒）の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

令和4年4月19日(火)

■ 調査の対象学年

中学校3年生生徒

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査(国語、算数・数学、理科)

①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。
②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。
調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、記述式の問題を一定の割合で導入する。

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

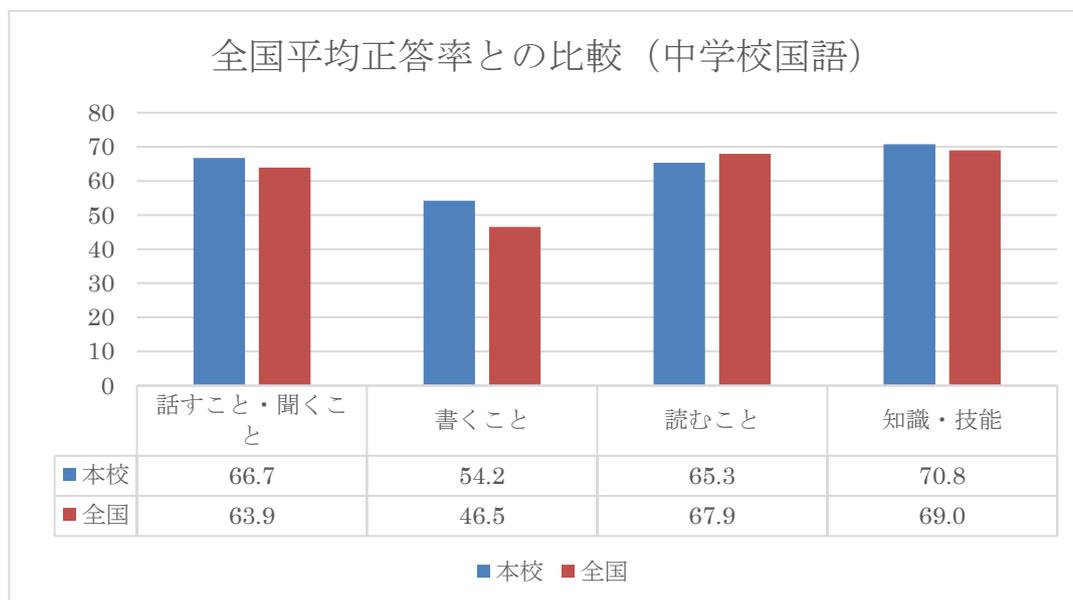
児童に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査 (例)国語への興味・関心、授業内容の理解度、読書時間、勉強時間の状況など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例)授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況など

■ 調査結果及び考察について

全国学力学習状況調査は小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数・数学に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご了解の上、ご欄ください。

R4 全国学力状況調査結果と分析(中学部)

◆国語について



1.成果(よかった点○とその要因☆)

○表現の技法や、表現の工夫についての問題は、83.1 と 61.0 で全国平均を大きく上回った。

☆表現技法の知識がしっかり身につけているため、その知識を使って、表現の工夫ができたと考えられる。

☆1年次には詩、2年時は短歌、3年時は俳句を学習し、実際に自分で創作する活動があったことで、抵抗なく問題に取り組めたと考える。

○自分の考えを文章にして伝える問題は、54.2 で、全国平均より 7.7%高かった。

☆国語の授業だけにとどまらず、様々な教科や、学校生活の中で自分の考えを書く活動が多いため、自分の考えをスムーズに書くことができたのではないだろうか。

2.課題(課題●とその要因★)

●登場人物の心情や場面の変化について、描写から想像することが苦手である。

★普段、読書をあまりしない生徒が多いため、長い文章に慣れていない。文章から想像を膨らませることができないと考えられる。

3.今後の取り組みなど

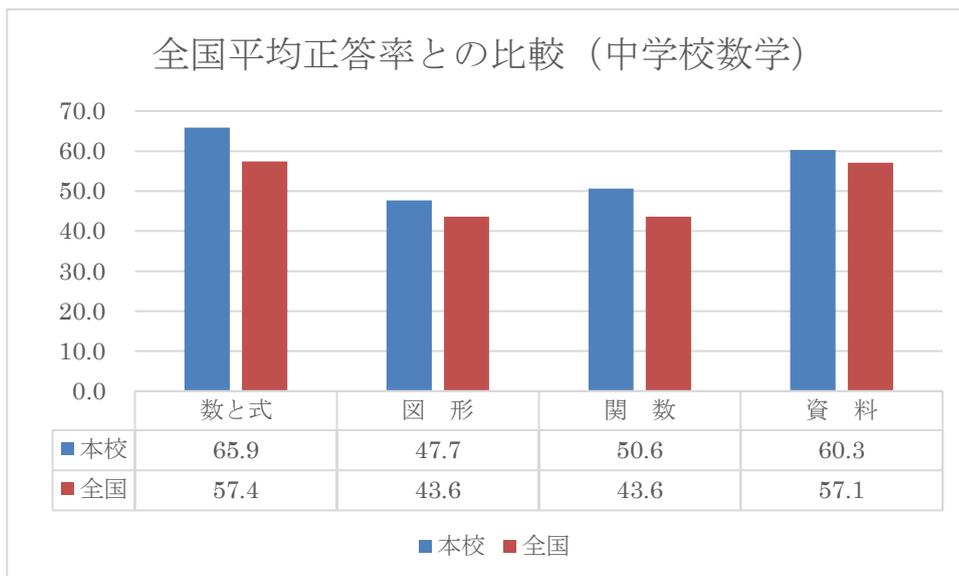
(1) 思考判断表現の力をつけるために必要な、基礎である知識技能を最低限身につけさせる。

① 文章の書き方、文法事項、漢字、語句などの指導を授業以外の場面でも継続して行っていく

(2) 長い文章を読み、登場人物の心情や、場面の変化を捉える力を身につけさせる。

① 小説を教材として扱い、主体的に取り組むことができるような言語活動を設定する。

◆数学について



1.成果(よかった点○とその要因☆)

○「素因数分解」や「連立方程式」などの計算は、どちらも正答率 81.0%で、佐賀県や全国の正答率を大きく上回っていた。

☆技能習得において、こちらからその方法を教えるのではなく、どうすればできるか、解けるかを考えさせたり、話し合いをさせたりしている。

☆計算的な技能の習得だけでなく、そのしくみや用途などについても、なるべく多く授業で取り扱っている。

☆「音読テスト(小テスト)」や「満点テスト」などをくり返し行うことで技能を定着させている。

○「差が4である2つの偶数の和が、4の倍数になることの説明を完成する」という問題では正答率が 58.6%で、佐賀県や全国の正答率を 10%以上上回っていた。また、無解答率が佐賀県 21.9%、全国 20.0%に対し、本校は 8.6%ととても低かった。

☆数の性質について説明する授業では、なるべく楽しい授業を心がけ、数の不思議な性質についてまず興味をもたせ、それを説明するためには文字の式が必要であることを十分に理解させてから、説明を考えさせる授業を行っている。

☆この単元が終わると同時に、様々な数の性質について発見、説明するような「レポート課題」を作成、提出させている。

○「一次関数の利用」において、グラフを利用して結論を導くための説明をする問題で、正答率が 53.4%で、全国や県の正答率を 15%以上上回っていた。

☆一次関数の利用の授業では、導入場面を大切にし、教科書を活用しながらなるべく日常生活に身近な題材を用いて、全員が興味・関心をもって取り組めるようにしている。

☆どうすれば自分の説明を相手が納得してもらえるか、話し合いの活動に多くの時間を使っている。

☆定期テストにおいても、説明する問題を多く取り入れている。

○記述式の問題については、ほぼすべてにおいて、無解答率が、佐賀県、全国よりも下回っており、積極的に自分の考えを書こうとする姿勢が身についている。

☆授業において、自分の考えを説明する時間を多くとっている。

☆定期テストにおいて、考え方を問う問題や、説明する問題を多く取り入れている。

2.課題(課題●とその要因★)

- 表から、変化の割合が2であるものを選ぶ選択問題（「一次関数の変化の割合」の意味を正しく理解しているかを問う問題）では、下記のように、

ア

x	...	-6	-4	-2	0	2	4	6	...
y	...	-11	-7	-3	1	5	9	13	...

イ

x	...	-6	-4	-2	0	2	4	6	...
y	...	-5	-3	-1	1	3	5	7	...

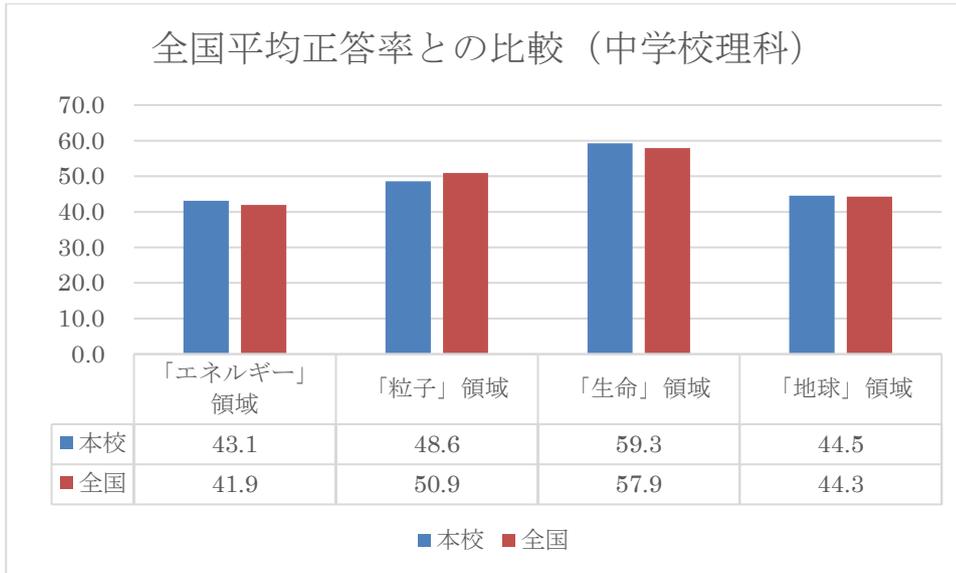
正解のアと答えた生徒の割合が36.2%（佐賀県33.2%、全国37.9%）で、 y の増加量が2ずつ増えているイと答えた生徒の割合が32.8%（佐賀県35.2%、全国32.5%）で、変化の割合が、 x の増加量が1のときの y の増加量と正しく理解せずに、ただ単純に、 y の増加量が2であるものを選んでしまった生徒が多くいた。

- ★変化の割合について、その意味と、変化の割合の求め方については、ある程度理解させているが、多種多様な問題について対応する力（活用する力）があまり身につけていない。
- ★表から、 x の増加量を考えずに、 y の増加量が2であるから変化の割合も2である、と解釈してしまった生徒が多数いたのは、表から変化の割合を求めるときに、 y の増加量だけに着目させて変化の割合を求める指導を行ってしまっていたのも要因の1つである。
- 2つの偶数の和がどのような場合に4の倍数になるか、自分で条件を見つけて答える問題では、正答率が31.0%で、全国の37.6%を下回った。
- ★カレンダーの数の並びから、自分で考えて様々な囲い方をして、その和が必ず何の倍数になるか、またそれが必ず成り立つことを文字の式で説明する授業やレポート課題などを2年次でしていたが、今回はそれがあまり生かされなかった。予想されなかった誤解答が46.6%もあり、記述はしているものの、必ず4の倍数となるとはかぎらない条件を答えた生徒が多くいたものと考えられる。自分が考えた解答が、本当に成り立つかどうかの吟味をするよう指導していく必要がある。
- 図形の問題で、合同である2つの三角形の性質を利用して説明する問題では、正答率が8.6%と大変低く、全国の12.5%よりも下回った。無解答率は20.7%で、佐賀県の40.3%、全国の38.5%、を大きく下回ることができた。
- ★まず、問題文がかなり長く、なにを説明すればよいのか問題把握ができなかった生徒が多くいたものと思われる。それでも、結論だけでも書こうとしたり、わかっている一部だけでも書こうとしたりする生徒が多数いて、そこは大変よかった。

3.今後の取り組みなど

- (1) 知識・技能の定着のために行ってきた下記の取り組みについては、今後も継続して行っていく。
 - ① 授業では、知識・技能を教え込むのではなく、考えさせ、話し合わせ、自分たちでその技能を発見・習得できるように工夫をして行う。
 - ② 知識・技能の定着のために、「音読テスト(小テスト)」や「満点テスト」をくり返し行う。
- (2) 関数分野や図形分野においては、なるべくいろんな視点から、習得した知識・技能を生かして問題解決に向けて考える力を身に付けることができるように、教科書の問題だけではなく、様々な応用問題を解かせる。
- (3) どの単元においても、思考・判断・表現を問う問題を取り扱う場面において、それまでに習得した知識や技能を、どのように使えばよいのか、なぜそれを使うのかを、知識・技能の意味や性質などを全体で振り返りながら、じっくりと考える時間をとり、知識・技能を使えるようにさせるだけでなく、どの場面でどのように使えるかを考えることができる生徒を育てるような授業を心がける。

◆理科について



1.成果(よかった点○とその要因☆)

- 観測した気圧と天気図の気圧と異なる理由を理解できている。
- ☆気圧に関する知識及び技能が身についている。
- ☆観測地の標高を空間的にとらえ、気圧の概念を気圧の概念を空気の柱で説明できる。
- セキツイ動物には骨格のつくりに通点があることからカラスの関節Aに対応する人とカエルのあしの関節を選択する。
- ☆足の骨格について共通性と多様性の見方を働かせながら比較することができた。
- ☆共通点と相違点を分析して解釈ができた。
- 水蒸気を多く含む空気を通した1つの実験の考察について課題を見出すことができた。
- ☆必要な実験を指摘して改善できるかどうかを見極めることができた。
- アリが視覚による情報基に行列をつくるかどうかを見極めることができた。
- ☆実験の結果を分析して解釈し、課題に正対した考察ができた。
- 生物Xがアリと比較しながら観点と基準を明確にして判断をすることができた。
- ☆分類の観点や基準を基に分析して解釈できた。

2.課題(課題●とその要因★)

- グラフから読み取り、雲の種類と関連づけて適切な天気図を選択することができなかった。
- ★天気の変化を分析して解釈することができなかった。
- 水素を燃料として、使う仕組みについて理解できていない。
- ★エネルギーをはしらとする領域の知識及び技能を関連づけ、水素を燃料として使う仕組みを理解できなかった。
- 玄武岩の露頭で化石の判断が可能か判断することができた。
- ★岩石に関する知識及び技能を活用することができた。
- 液体が気体に状態変化することによって温度が下がる身近な現象が分からなかった。
- ★状態変化に関する知識及び技能を活用させることができなかった。

3.今後の取り組みなど

- (1) 知識・技能の定着のために、実験や観察を行ったり、電子黒板によるデジタル教科書を用いた視覚に訴える授業を行ったり、理科ノートや理科問題集を繰り返し、ドリル的に行うことで知識・技能が定着させたい。
 - ① 授業では、授業で知識・技能を教えるだけでなく、自ら考え、自分たちでその技能を習得できるように工夫して、実験や観察を行う。
 - ② 知識・技能の定着のために、「理科ノート」や「理科の自主学習」などを繰り返し、ドリル的に行い、継続的な定着を図りたい。

◆ 生徒質問紙について

1.気づき(よかった点○)

- スマホ、ケータイの使い方を守っている。
- スマホ、ゲームをする時間が県・全国平均よりも少ない。
- SNS 動画視聴の時間がかなり少ない。
- いじめについての自覚が県・全国平均よりも高い。
- 学校が楽しく、人が困っているのを助けたい生徒がかなり多い。
- 友達との協力が楽しいが生徒かなり多い。
- 地域の行事に参加している生徒がかなり多い。
- 作品や作文などを創作する活動を生徒が取り組んでいる。
- 話し合い活動で自分の考えを深めたり、広げたりできている。
- 総合学習で自ら課題を立てて調べ、整理し発表することができている。
- 道徳の授業で自分の考えを深めたり、話し合い活動をしたりしている。

2.気づき(課題点●)

- 自己肯定感が低い生徒が多い。
- 難しいことに挑戦をする生徒が少ない。
- 家での勉強がかなり少ない。
- 家にある本の冊数が少ない。
- 自然観察などの機会が少ない。
- 地域社会をよくするために何をすべきかをあまり考えていない。
- 授業で課題解決に向けて自ら考え、解決することが少ない。
- 各教科で自分の考えをまとめる活動があまりできてなかった。

3.その他の気づき

- ・PC・タブレット・ケータイ等の使い方やマナー、ルールなどは良く理解し、実践できているが、学習の場面でツールとしてあまり活用されていないのがもったいない。

4.小中一貫校思斉館としての今後の課題や取り組むべき内容など

- ・今後、将来に向けて小学校からPCやタブレットのスキル向上に取り組んで、学習面における効果的な活用ができるように小中連携して早急に取り組んでいく必要がある。